宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 266 集

西南戦争関連遺跡総合調査
成果報告書

２０２３

宮崎県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は、宮崎県教育委員会が文化庁の国庫補助を得て実施した、「近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～」の成果報告書である。

2　現地調査に伴うカード作成および写真撮影は、日髙広人、黒木俊彦、谷口至、上野哲矢、堀田孝博が行い、赤崎広志、飯田博之、平井祥蔵、竹田享志、伊東浩二、小吹雅史の協力を得た。

3　金属製品の応急処置、整理作業については、日髙、黒木、谷口、上野、堀田、加藤真理子、本部裕美が行い、日髙敬子氏（宮崎県立西都原考古博物館）の協力を得た。

4　測量調査の一部および自然科学分析（蛍光Ｘ線分析）は、下記のとおり業務委託した。

・測　量　業　務　株式会社 パスコ（令和２・３年度）

・自然科学分析　株式会社 古環境研究センター（令和２～４年度）

5　本書に掲載した位置図は、国土地理院の地理院地図（https://maps.gsi.go.jp）を加工して作成した。

6　本書中の図面の方位は、座標北（G.N.）を示している。標高は海抜絶対高である。また、各図で使用した座標は国土座標平面直角座標系第Ⅱ系（世界測地系）に準拠している。

7　本書の執筆・編集は、堀田が行った。

8　出土遺物・実測図・その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

9　本書に先立ち、事業の概要報告を行っているが、記載内容については本書が優先される。

・宮崎県埋蔵文化財センター年報第25号　令和２(2020)年度

・宮崎県埋蔵文化財センター年報第26号　令和３(2021)年度

10　西南戦争に関する各種用語については、現時点で統一されたものがなく、いずれを選択・使用するのか判断に苦慮する場合がある。本書では、暫定的ながら以下のように整理した。

・両軍の名称については、『征西戦記稿』など当時の史料に「官軍」「賊軍」とあるが、明治政府側はより客観的な表現として「政府軍」とする。一方、士族側にはより客観的な表現として「薩摩軍」「西郷軍」などが使用される場合があるが、これらの名称では多様な構成員の内実を表現しきれないため、『薩南血涙史』など当時の士族側史料でも用いられている「薩軍」とする。

・両軍が構築した防御施設については、『征西戦記稿』など当時の史料に「堡塁」「胸壁」「塹壕」「塁」とあるが、地元住民の残した記録・伝承において多数を占め、『西南戦争の考古学的研究』（高橋2017）など先行研究でも使用されている「台場」とする。

・両軍が使用した小銃類の名称については、『征西戦記稿』など当時の史料に「エンピール銃」「スナイドル銃」「ツンナール銃」などが見られるが、このうち「エンピール銃」については先行研究のほか、発掘調査報告書などでも広く使用されている「エンフィールド銃」とする。

【参考文献】

加治木常樹 1912『薩南血涙史』（青潮社による1988年復刻版）

参謀本部陸軍部 1887『征西戦記稿』中巻（青潮社による1987年復刻版）

高橋信武 2017『西南戦争の考古学的研究』　吉川弘文館

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　事業に至る経緯…… 1
第２節　事業の実施体制…… 1
第３節　事業の概要…… 2

第Ⅱ章　鳥川台場群の調査
第１節　立地と概要…… 9
第２節　遺構と遺物…… 9

挿　図　目　次

第１図　宮崎県内の西南戦争関連遺跡分布図（S=1:700,000）…… 8
第２図　鳥川台場群　位置図（S=1:50,000）…… 9
第３図　鳥川台場群３～９号　遺構分布図（S=1:300）…… 11
第４図　鳥川台場群４号　遺構実測図（S=1:60）…… 12

表　目　次

第１表　各年度の調査体制…… 1
第２表　調査遺跡一覧表（台場）①…… 3
第３表　調査遺跡一覧表（台場）②…… 4
第４表　調査遺跡一覧表（墓・慰霊碑等）①…… 5
第５表　調査遺跡一覧表（墓・慰霊碑等）②…… 6
第６表　調査遺跡一覧表（その他）…… 7

図　版　目　次

図版１　阿下台場群１号（日之影町）
菅原台場群１号（延岡市）
陣が峰北尾根台場群２号（延岡市）
図版２　桐ノ陣台場群１号（日向市）
鳥川台場群４号（日向市）
余瀬台場群２号（日向市）
図版３　尾立台場群５号（綾町）
勝負台場群14号（小林市）
岩牟礼城跡台場群１号（小林市）
図版４　薩軍兵士の墓（延岡市）
細島官軍墓地（日向市）
西郷南洲翁家来の墓（日向市）
図版５　広木野台場（五ヶ瀬町）
宮ノ原台場（五ヶ瀬町）
小坂峠台場群４号（高千穂町）
図版６　和田越台場群３号（延岡市）
横谷台場群１号（西米良村）
天包山台場群４号（西米良村）
図版７　陣之尾台場群35号（宮崎市）
市ノ瀬台場群１号（小林市）
矢岳台場群４号（えびの市）
図版８　薩軍兵士の墓（五ヶ瀬町）
官軍墓地（高千穂町）
官軍墓地の墓石群（えびの市）
図版９　樫山台場群２号（延岡市）
一里山台場群３号（西米良村）
百貫山台場群１号（えびの市）
図版10　招魂之碑（西都市）
奉招神魂牌（小林市）
飯野郷招魂碑（えびの市）

第Ⅰ章　はじめに

第１節　事業に至る経緯

西南戦争は、明治10（1877）年に現在の熊本県・鹿児島県・大分県・宮崎県を舞台に西郷隆盛を中心とした士族が起こした国内最後で最大規模の内戦である。この戦争が契機となり、明治政府が近代国家として権力を確立するなど、日本近代史上において重要な意義を持つ。とりわけ宮崎県に関しては、前年の明治９（1876）年に鹿児島県へ編入・廃県された状態で戦乱に突入し、戦争の後半期（６～８月）は旧宮崎県域が戦場となったため、広範囲にわたって台場が残っており、多くの地域が戦闘に巻き込まれたことを物語っている。また、資金の調達に困った薩軍が発行した軍票（西郷札）が大量に出回っていたにもかかわらず、戦後にそれらの補償が行われなかったため、経済は大混乱に陥った。さらに、復興も鹿児島を中心に進められたことで、不満の高まった県民によって、鹿児島からの分県を求める運動が広がり、明治16（1883）年に宮崎県が再設置されることになった。

上記のように、西南戦争は現在の宮崎県が成立する上で大きな影響を与えたのであり、一部の市町村では聞き取り調査の内容が刊行され、あるいは地元の研究者が詳細な踏査や文献調査の成果を書籍としてまとめられ、その他に有志を中心とした慰霊祭が各所で行われるなど、西南戦争の記憶を継承しようという取組は少なくないが、県全体における戦跡や墓・慰霊碑などの実態については不明のままであった。そこで、宮崎県教育委員会は県内における西南戦争関連遺跡の現況把握や関連遺跡を保存・継承する目的で「近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～」を事業化し、調査機関である宮崎県埋蔵文化財センターが、令和２（2020）年度から令和４（2022）年度まで調査や普及活動を実施した。

第２節　事業の実施体制

現地調査、整理作業・報告書作成などについては、下記の体制で実施した。

調査主体　：　宮崎県教育委員会

調査機関　：　宮崎県埋蔵文化財センター

第１表　各年度の調査体制

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
教育長	日隈　俊郎	黒木　淳一郎	黒木　淳一郎
文化財課長	籾木　郁朗	加塩　美昭	長友　由美子
課長補佐	堀　　尚子	堀　　尚子	飯田　博之
埋蔵文化財担当リーダー	飯田　博之	松林　豊樹	松林　豊樹
埋蔵文化財センター所長	山元　高光	菊村　祐司	菊村　祐司（～R04.12） 吉本　正典（R05.02～）
副所長	赤崎　広志	赤崎　広志	片伯部　真一
総務課長	鈴木　勝代	鈴木　勝代	
総務担当リーダー	阿波野　ゆかり	阿波野　ゆかり	阿波野　ゆかり
調査課長	（兼）赤崎　広志	飯田　博之	東　　憲章
調査第三担当リーダー	日髙　広人	堀田　孝博	堀田　孝博
調査第三担当主査	黒木　俊彦 谷口　　至	黒木　俊彦 谷口　　至	谷口　　至 上野　哲矢

第３節　事業の概要

令和２年度

日之影町、延岡市、日向市、美郷町、宮崎市、綾町、小林市において現地調査を実施し、台場301基（うち10基は大分県内）と墓・慰霊碑等330基、その他１箇所についてＧＰＳによる位置情報取得、計測、記録カード作成、写真撮影を行った。

また、日之影町所在の大山台場群２号、延岡市所在の菅原台場群１号、猿渡台場群１～３号、内谷峯台場群29号、日向市所在の牧島山台場、鳥川台場群３～９・11・12号（測量委託を含む）、笹尾台場群30・31号、美郷町所在の田代台場群２号について測量調査を行った。

教育普及活動としては、普及資料課が開催した移動展示会『土器と石器がやってきた！　埋文セレクション』（於：日向市役所市民ホール、10月22日～ 11月23日）において、日向市域における戦闘経過や出土遺物を中心とした展示を行った。

令和３年度

五ヶ瀬町、高千穂町、延岡市、日向市、西米良村、宮崎市、小林市、えびの市において現地調査を実施し、台場174基、墓・慰霊碑等149基、その他５箇所についてＧＰＳによる位置情報取得、計測、記録カード作成、写真撮影を行った。

また、日向市所在の笹尾台場群５・７～ 19･32号（測量委託を含む）について測量調査を行ったほか、小林市所在の七熊山台場群において遺物分布図を作成した。

教育普及活動としては、小林市教育委員会との共催で成果展を開催する準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して中止とした。

令和４年度

日之影町、延岡市、高鍋町、西都市、西米良村、宮崎市、国富町、綾町、小林市、えびの市において現地調査を実施し、台場46基（うち４基は熊本県内）、墓・慰霊碑等31基、その他23箇所についてＧＰＳによる位置情報取得、計測、記録カード作成、写真撮影を行った。

また、日之影町所在の阿下台場群２号について測量調査を行った。　※以上は11月末現在の実績

教育普及活動としては、令和３年度に中止した成果展『西南戦争と七熊山～ 145年の時を超えて～』を小林市教育委員会との共催で実施し（於：小林市役所本庁舎および須木庁舎、10月17日～ 11月11日）、会期中の10月20日に行われた小林中央公民館生涯学習講座「こばやしヒストリア講座」において講演と展示解説を行った。また、宮崎県総合博物館が開催した『発掘された日本列島2022』（11月５日～ 12月11日）のコラボレーション企画としてエントランス展示「山河に刻まれた西南戦争の記憶」を実施し（９月28日～ 12月11日）、会期中の11月20日には当センター主催の「埋文講座」における講演と展示解説を行った。

第２表　調査遺跡一覧表（台場）①

No.	市町村	地区	名称	基数	政府軍	薩軍	調査年次	備考
1	五ヶ瀬町	桑野内	樺木岳台場	1	○		令和３(2021)	
2	五ヶ瀬町	三ヶ所	室野岳台場群	3		○	令和３(2021)	
3	五ヶ瀬町	三ヶ所	広木野台場	1		○	令和３(2021)	
4	五ヶ瀬町	三ヶ所	宮ノ原台場	1		○	令和３(2021)	
5	五ヶ瀬町	三ヶ所	鏡山台場群	4	○		令和３(2021)	
6	五ヶ瀬町	三ヶ所	坊主山台場群	2	○		令和３(2021)	
7	五ヶ瀬町	三ヶ所	笠部峠台場	1	○		令和３(2021)	
8	五ヶ瀬町	鞍岡	大石越台場	1	○		令和３(2021)	
9	高千穂町	上野	戸ノ口台場群	3		○	令和３(2021)	
10	高千穂町	三田井	小坂峠台場群	5		○	令和３(2021)	
11	高千穂町	上岩戸	富野尾台場群	2		○	令和３(2021)	
12	日之影町	七折	舟の尾台場群	10	○	○	令和２(2020)	
13	日之影町	七折	高塚山台場群	13	○	○	令和２(2020)	
14	日之影町	七折	阿下台場群	1	○		令和２(2020)	
	日之影町	七折	阿下台場群	1	○		令和４(2022)	
15	日之影町	七折	日之影新町台場群	11	○		令和２(2020)	
16	日之影町	七折	椛木台場群	3	○		令和２(2020)	
17	日之影町	七折	楠原台場群	6		○	令和２(2020)	
18	日之影町	七折	山師峠台場群	5		○	令和２(2020)	
19	日之影町	七折	杉の原台場	1		○	令和２(2020)	
20	日之影町	岩井川	大楠台場群	6	○	○	令和２(2020)	
21	日之影町	岩井川	矢形的台場群	5		○	令和２(2020)	
22	日之影町	分城	高松台場群	5	○		令和２(2020)	
23	日之影町	分城	千本杉台場群	5	○	○	令和２(2020)	
24	日之影町	分城	大山台場群	2		○	令和２(2020)	
25	延岡市	北方町早上	猿渡台場群	3	○？		令和２(2020)	
26	延岡市	北方町早中	楠八重台場	1		○	令和２(2020)	
27	延岡市	北方町菅原	菅原台場群	5		○	令和２(2020)	
28	延岡市	北方町椎畑	椎畑台場	1		○	令和２(2020)	
29	延岡市	北方町上崎	上崎台場	1		○	令和２(2020)	
30	延岡市	北方町うそ越	獺越台場群	3		○	令和２(2020)	
31	延岡市	北川町川内名	大原越台場群	34	○	○	令和２(2020)	うち10基は大分県内
32	延岡市	北浦町三川内	大井東尾根台場群	4		○	令和２(2020)	
33	延岡市	北浦町三川内	陣が峰北尾根台場群	5	○		令和２(2020)	
34	延岡市	北浦町三川内	陣が峰西尾根台場	1	○？		令和２(2020)	
35	延岡市	須佐町	内谷峯台場群	29	○	○	令和２(2020)	
36	延岡市	大峡町ほか	和田越台場群	43	○	○	令和３(2021)	
	延岡市	大峡町ほか	和田越台場群	18	○	○	令和４(2022)	
37	延岡市	樫山町	樫山台場群	3	○		令和４(2022)	

第３表　調査遺跡一覧表（台場）②

No.	市町村	地区	名称	基数	政府軍	薩軍	調査年次	備考
38	日向市	日知屋	梶木台場	1	○		令和２(2020)	
39	日向市	日知屋	牧島山台場・ 幡浦愛宕神社	5		○	令和２(2020)	延岡藩の海防台場を転用
40	日向市	幸脇	権現崎台場群	2		○	令和２(2020)	耳川北岸
41	日向市	幸脇	桐ノ陣台場群	2		○	令和２(2020)	耳川北岸
42	日向市	幸脇	飯谷台場群	5		○	令和２(2020)	耳川北岸
43	日向市	美々津町	新町台場	1			令和２(2020)	高鍋藩の海防台場
44	日向市	美々津町	美三ヶ辻台場群	19	○		令和２(2020)	耳川南岸
45	日向市	美々津町	鹿場台場群	6	○		令和２(2020)	耳川南岸
46	日向市	美々津町	余瀬台場群	2	○		令和２(2020)	耳川南岸
47	日向市	美々津町	笹尾台場群	31	○		令和２(2020)	耳川南岸
48	日向市	東郷町山陰乙	鳥川台場群	12		○	令和２(2020)	耳川北岸
49	日向市	東郷町山陰乙	竹ノ本台場群	2		○	令和２(2020)	耳川北岸
50	日向市	東郷町山陰乙	崎山台場	1		○	令和２(2020)	耳川北岸
51	日向市	東郷町山陰乙	福瀬松ノ下台場群	2		○	令和２(2020)	耳川北岸
52	日向市	東郷町山陰丙	柿ノ木田越台場群	4		○	令和２(2020)	
53	日向市	東郷町山陰己	蕨野台場群	2	○		令和２(2020)	
54	美郷町	西郷田代	田代台場群	3	○？		令和２(2020)	
55	美郷町	南郷鬼神野	万寿峠台場	1		○	令和２(2020)	
56	西米良村	竹原	天包山台場群	8	○	○	令和３(2021)	
57	西米良村	板谷	一里山台場群	14		○	令和４(2022)	うち４基は熊本県内
58	西米良村	板谷	横谷台場群	2	○？	○	令和３(2021)	
59	宮崎市	大瀬町	浦田台場群	9		○	令和３(2021)	
60	宮崎市	清武町今泉	大久保台場	1		○	令和４(2022)	
61	宮崎市	高岡町紙屋	陣之尾台場群	42		○	令和３(2021)	
62	宮崎市	高岡町紙屋	高岡紙屋台場群	3		○	令和３(2021)	
63	綾町	北俣	尾立台場群	6		○	令和２(2020)	
64	綾町	南俣	中尾台場群	16		○	令和２(2020)	
65	小林市	野尻町紙屋	高山山頂台場	1		○	令和３(2021)	
66	小林市	野尻町紙屋	市ノ瀬台場群	3	○	○	令和３(2021)	
67	小林市	野尻町紙屋	太尾台場	1		○	令和４(2022)	
68	小林市	野尻町東麓	勝負台場群	14		○	令和２(2020)	
	小林市	野尻町東麓	勝負台場群	12		○	令和３(2021)	
69	小林市	野尻町三ヶ野山	岩牟礼城跡台場群	4	○		令和２(2020)	
70	小林市	須木鳥田町	九瀬台場	1		○	令和４(2022)	
71	小林市	須木奈佐木	奈佐木峠台場群	6		○	令和３(2021)	
72	小林市	須木内山	七熊山台場群	3	○	○	令和３(2021)	
73	えびの市	東川北	加久藤越台場群	4		○	令和４(2022)	
74	えびの市	東川北	百貫山台場群	2	○		令和４(2022)	
75	えびの市	西川北	矢岳台場群	18		○	令和３(2021)	
76	えびの市	西長江浦	溝園城跡台場	1	○		令和４(2022)	
			総数	521基				

第４表　調査遺跡一覧表（墓・慰霊碑等）①

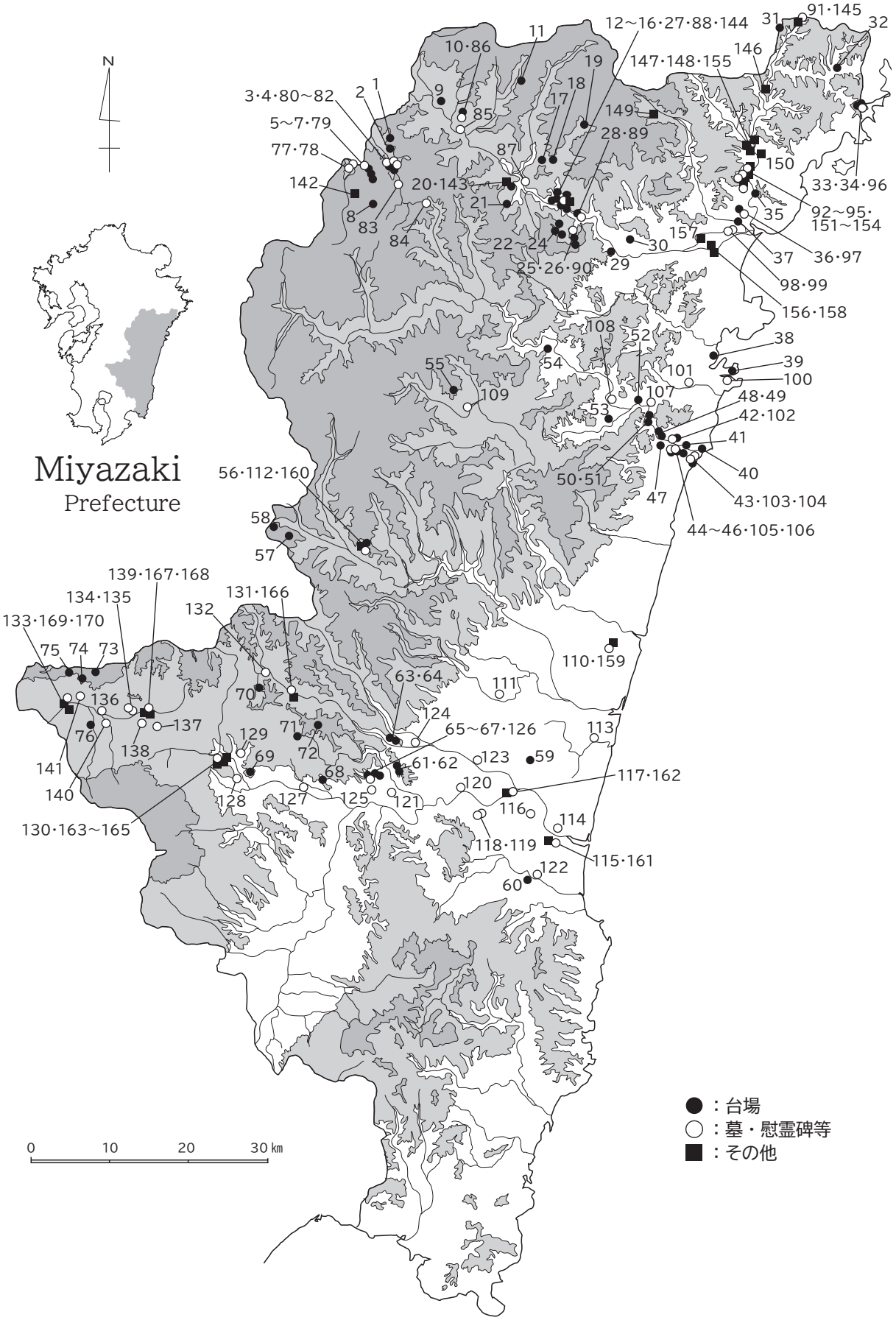
No.	市町村	地区	名称	基数	政府軍	薩軍	調査年次	備考
77	五ヶ瀬町	鞍岡	八人塚	1		○	令和３(2021)	萩原
78	五ヶ瀬町	鞍岡	薩軍兵士の墓	2		○	令和３(2021)	揚
79	五ヶ瀬町	三ヶ所	西南戦争慰霊碑	1	○	○	令和３(2021)	鏡山
80	五ヶ瀬町	三ヶ所	鏡山西南役慰霊遙拝	1	○	○	令和３(2021)	千人塚
81	五ヶ瀬町	三ヶ所	西郷軍三百余士碑	1		○	令和３(2021)	浄専寺
82	五ヶ瀬町	三ヶ所	薩軍兵士の墓	2		○	令和３(2021)	浄専寺
83	五ヶ瀬町	三ヶ所	西郷隆盛本営址	1		○	令和３(2021)	専光寺
84	五ヶ瀬町	三ヶ所	西郷隆盛退軍之路	1		○	令和３(2021)	飯干峠
85	高千穂町	三田井	官軍墓地	42	○		令和３(2021)	高千穂町指定史跡
86	高千穂町	三田井	薩州さんの墓	1		○	令和３(2021)	小坂峠
87	日之影町	七折	富士本長吉墓	1		○	令和４(2022)	中村
88	日之影町	七折	新見宗吉墓	1		○	令和４(2022)	新町
89	延岡市	北方町椎畑	薩軍兵士の墓	1		○	令和２(2020)	
90	延岡市	北方町早上	薩軍兵士の墓	1		○	令和２(2020)	荒平
91	延岡市	北川町川内名	西南之役陸地峠戦闘跡	1	○	○	令和４(2022)	
92	延岡市	北川町長井	薩軍兵士の墓	1		○	令和３(2021)	成就寺
93	延岡市	北川町長井	中津大四郎自刃の地	1		○	令和３(2021)	俵野
94	延岡市	北川町長井	明治十年激戦地碑	1	○	○	令和３(2021)	俵野
95	延岡市	北川町長井	小倉處平自刃之地	1		○	令和３(2021)	三足
96	延岡市	北浦町三川内	西南戦争戦没者供養塔	1	○		令和２(2020)	陣が峰
97	延岡市	無鹿町	和田越決戦之地	1	○	○	令和３(2021)	
98	延岡市	山下町	延岡隊戦没者招魂碑	1		○	令和３(2021)	今山公園
99	延岡市	北小路	岡富官軍墓地	1	○		令和３(2021)	台雲寺
100	日向市	細島	細島官軍墓地	319	○		令和２(2020)	日向市指定史跡
101	日向市	塩見	無名戦士の墓	3		○	令和３(2021)	羽山尻
102	日向市	幸脇	西南之役戦没者慰霊之碑	1		○	令和２(2020)	飯谷
103	日向市	美々津町	故一等警部補細谷卓良之墓	1	○		令和２(2020)	
104	日向市	美々津町	無名戦士の墓	3		○	令和３(2021)	高松
105	日向市	美々津町	西南の役供養塔	1		○	令和２(2020)	余瀬
106	日向市	美々津町	薩軍兵士の墓	41		○	令和３(2021)	余瀬
107	日向市	東郷町山陰乙	西郷南洲翁家来の墓	1		○	令和２(2020)	出口、日向市指定史跡
108	日向市	東郷町山陰辛	薩軍兵士の墓	1		○	令和２(2020)	大工野
109	美郷町	南郷鬼神野	西南の役戦没者の墓	2		○	令和２(2020)	
110	高鍋町	南高鍋	丁丑戦亡記念碑	1		○	令和４(2022)	舞鶴公園
111	西都市	下三財	招魂之碑	1		○	令和４(2022)	
112	西米良村	竹原	西南戦争之碑	1	○	○	令和３(2021)	天包山

第５表　調査遺跡一覧表（墓・慰霊碑等）②

No.	市町村	地区	名称	基数	政府軍	薩軍	調査年次	備考
113	宮崎市	佐土原町下那珂	戦没招魂塚	1		○	令和４(2022)	広瀬護国神社
114	宮崎市	広島	西郷隆盛翁駐在之跡	1		○	令和４(2022)	
115	宮崎市	中村東	樹網鶴の墓石	1			令和４(2022)	真光寺
116	宮崎市	小松	太々御神楽標石	1		○	令和４(2022)	小松神社
117	宮崎市	糸原	丁丑之乱戦死塚	1	○	○	令和４(2022)	
118	宮崎市	高岡町小山田	招魂墓	1		○	令和４(2022)	穆佐
119	宮崎市	高岡町小山田	顕彰碑	1		○	令和４(2022)	穆佐
120	宮崎市	高岡町内山	丁丑戦亡招魂塚	1		○	令和４(2022)	高岡護国神社
121	宮崎市	高岡町浦之名	合葬墓	1		○	令和２(2020)	
122	宮崎市	清武町木原	招魂碑	1		○	令和４(2022)	中野神社
123	国富町	本庄	法難三法師の墓	3			令和４(2022)	宝光寺
124	綾町	南俣	丁丑役戦亡招魂塚	1		○	令和４(2022)	綾護国神社
125	小林市	野尻町紙屋	招魂社	1		○	令和４(2022)	高妻神社
126	小林市	野尻町紙屋	供養碑	1		○	令和４(2022)	太尾
127	小林市	野尻町三ヶ野山	奉招神魂牌	1		○	令和４(2022)	大塚原公園
128	小林市	堤	招魂塚	1		○	令和４(2022)	三松公民館
129	小林市	真方	官軍兵卒本田半左衛門之碑	1	○		令和４(2022)	新田場東納骨堂
130	小林市	細野	招魂塚	1		○	令和４(2022)	緑ヶ丘公園
131	小林市	須木中原	戦死追弔碑	1		○	令和４(2022)	大年神社
132	小林市	須木鳥田町	西郷隆盛宿営之地	1		○	令和４(2022)	旧川添源左衛門宅
133	えびの市	水流	招魂社・吉田郷従軍者名碑	2		○	令和３(2021)	菅原神社
134	えびの市	坂元	官軍墓地の墓石群	36	○		令和３(2021)	移設されている
135	えびの市	坂元	官軍墓供養塔	1	○		令和３(2021)	移設前の墓地
136	えびの市	小田	加久藤郷招魂墓	1		○	令和３(2021)	忠霊塔広場
137	えびの市	原田	戦傷病者之碑	1	○	○	令和３(2021)	八幡丘
138	えびの市	原田	飯野郷招魂碑	1		○	令和４(2022)	忠霊塔広場
139	えびの市	原田	松形祐高墓碑	1			令和４(2022)	麓
140	えびの市	末永	薩軍兵士無縁墓	2		○	令和４(2022)	
141	えびの市	西川北	馬関田郷招魂碑	1		○	令和４(2022)	菅原神社
			総数	510基				

第６表　調査遺跡一覧表（その他）

No.	市町村	地区	名称	基数	政府軍	薩軍	調査年次	備考
142	五ヶ瀬町	鞍岡	金光寺	1		○	令和３(2021)	西郷隆盛が宿泊
143	日之影町	岩井川	弾痕石	1	○	○	令和２(2020)	大楠
144	延岡市	北方町菅原	西南戦争激戦の地	1	○	○	令和４(2022)	
145	延岡市	北川町川内名	西南戦争陸地峠水汲場	1			令和４(2022)	
146	延岡市	北川町川内名	薩軍松瀬包帯所跡	1		○	令和４(2022)	旧矢野春季宅
147	延岡市	北川町川内名	西郷隆盛宿陣跡	1		○	令和４(2022)	吉祥寺
148	延岡市	北川町川内名	奇兵隊本営跡	1		○	令和４(2022)	北川総合支所
149	延岡市	北川町川内名	西郷隆盛宿陣の跡	1		○	令和４(2022)	旧小野熊治宅
150	延岡市	北川町長井	小倉處平加療の地	1		○	令和４(2022)	
151	延岡市	北川町長井	西南戦争時野戦病院跡	1		○	令和３(2021)	成就寺
152	延岡市	北川町長井	南洲翁寓居跡	1		○	令和４(2022)	旧児玉熊四郎宅、宮崎県指定史跡
153	延岡市	北川町長井	西郷菊次郎加療の地	1		○	令和４(2022)	旧児玉惣四郎宅
154	延岡市	北川町長井	桐野利秋宿営の地	1		○	令和４(2022)	旧児玉初治宅
155	延岡市	北川町長井	西郷隆盛宿陣の跡	1		○	令和４(2022)	旧小野彦治宅
156	延岡市	大貫町	西郷隆盛宿陣址	1		○	令和４(2022)	旧山内善吉家跡
157	延岡市	野田町	西南の役延岡隊最後の奮戦地跡	1	○	○	令和３(2021)	野田神社
158	延岡市	三須町	山田顕義少将宿営の地	1	○		令和４(2022)	旧中城善平宅
159	高鍋町	上江	籾倉	1		○	令和４(2022)	高鍋城内より黒水家住宅へ移設
160	西米良村	竹原	坊主岩	1	○	○	令和３(2021)	天包山、弾痕あり
161	宮崎市	中村西	旧福島邦成邸前瓦舗装路	1			令和４(2022)	
162	宮崎市	糸原	谷村計介旧宅	1	○		令和４(2022)	宮崎県指定史跡
163	小林市	真方	小林本営跡地	1		○	令和４(2022)	地頭仮屋跡
164	小林市	真方	西郷軍銃器製造所跡	1		○	令和４(2022)	浄信寺
165	小林市	細野	西郷隆盛宿陣之地	1		○	令和４(2022)	旧時任為英宅
166	小林市	須木下田	別働第二旅団本営跡	1	○		令和４(2022)	旧田中久子宅
167	えびの市	原田	弾薬製造所	1		○	令和４(2022)	飯野出張所
168	えびの市	原田	飯野のイチョウ	1			令和４(2022)	戦火で一部焼ける
169	えびの市	水流	浜崎宅の門柱	1	○	○	令和３(2021)	刀傷あり
170	えびの市	向江	荒神堂タブ大樹	1			令和４(2022)	戦火で一部焼ける
			総数	29箇所				



第１図　宮崎県内の西南戦争関連遺跡分布図（S=1:700,000）

第Ⅱ章　鳥川台場群の調査

第１節　立地と概要

耳川は宮崎県と熊本県の境をなす三方山に源を発し、椎葉村、諸塚村、美郷町、日向市を経て日向灘へ注ぐ全長約100kmの二級河川である。西南戦争後半期の宮崎平野部における戦闘は、大河川を挟んで両軍が対峙するケースが多かったが、政府軍は明治10（1877）年７月31日に大淀川、８月２日に一ツ瀬川と立て続けに渡河を果たし、後退を余儀なくされた薩軍は耳川北岸を新たな防御線と定め、河口部の幸脇から中流域の東郷町山陰まで総延長15kmに及ぶ台場群を構築した。政府軍は８月４日から耳川北岸の薩軍攻略を試みるが、連日の豪雨により増水した耳川の濁流に阻まれ、８月７日にようやく福瀬付近で渡河に成功した別働第二旅団の一部隊が富高新町を占領したものの、政府軍本営にその報告が到達したのは９日になってからであった。この６日間において政府軍は耳川南岸に台場を構築し続けたとみられ、耳川の両岸に長大な台場群が形成されることとなった。

鳥川台場群は日向市東郷町山陰乙に所在し、耳川河口から直線距離にして約５kmの北岸、鳥川集落の西側にある標高約139mの尾根上付近に12基の台場が残存している。北岸にあって、いずれも南方の川側に土塁を伴うことから、全て薩軍が構築したものと考えられる。その一方、対岸にある山の尾根上には、政府軍が陣を敷いた笹尾台場群が展開しており、両軍の対峙状況を彷彿とさせる。

第２節　遺構と遺物

鳥川台場群では12基の台場が確認されている。尾根の南東端に近い斜面に１・２号があり、そこから北西の尾根上に登り切った標高117 ～ 119m付近に３～９号が列築されている。さらに北西に進んだ標高139mの三角点付近に11・12号があり、10号はそこからやや南西に下った斜面に所在する。

鳥川台場群１号

規模は最大幅が約8.6m、奥行が約6.3mである。南西側に土塁を備えており、内側の凹地は北東側の斜面に向かって開くため、全体として平面形は「C」字状を呈する。土塁の北端付近は、自然地形の斜

第2図　鳥川台場群　位置図（S=1:50,000）

面へと繋がっていき不明瞭になる。土塁中央付近での基底幅は約0.9mで、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.6mである。土塁上でスナイドル銃弾１点、土塁前方（西側）の斜面でエンフィールド銃弾（青銅製）１点を採集した。スナイドル銃弾は発見時の状況からみて、対岸の笹尾台場群付近から政府軍兵士が発砲した可能性がある。エンフィールド銃弾は薩軍が現地製作したものであるため、降雨の影響等により正常に発射できなかったか、トラブル等により取り落としたものとも考えうる。

鳥川台場群２号

土塁の東側が道に切られており、正確な規模は不明であるが、現況で最大幅が約8.3m、奥行が約5.0mである。南側に土塁を備え、南西側は急斜面となっている。土塁の平面形は弧状を呈するが、西側は直線的に伸びて凹地が開いた状態となる。土塁中央付近での基底幅は約1.1m、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.4mである。

鳥川台場群３号（第３図）

規模は最大幅が約4.4m、奥行が約2.8mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約1.4m、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.5mである。

鳥川台場群４号（第３・４図、図版２）

規模は最大幅が約4.8m、奥行が約2.4mである。やや不整な弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約0.6m、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.6mである。土塁内側に石を積み上げて土留めを行う工法は、他の土塁では見られず、台場の構造を知るうえで非常に重要である。土塁内側の下端付近でエンフィールド銃弾（鉄製）１点を採集したが、薩軍が現地製作したものであるため、降雨の影響等により正常に発射できなかったか、トラブル等により取り落としたものとも考えうる。

鳥川台場群５号（第３図）

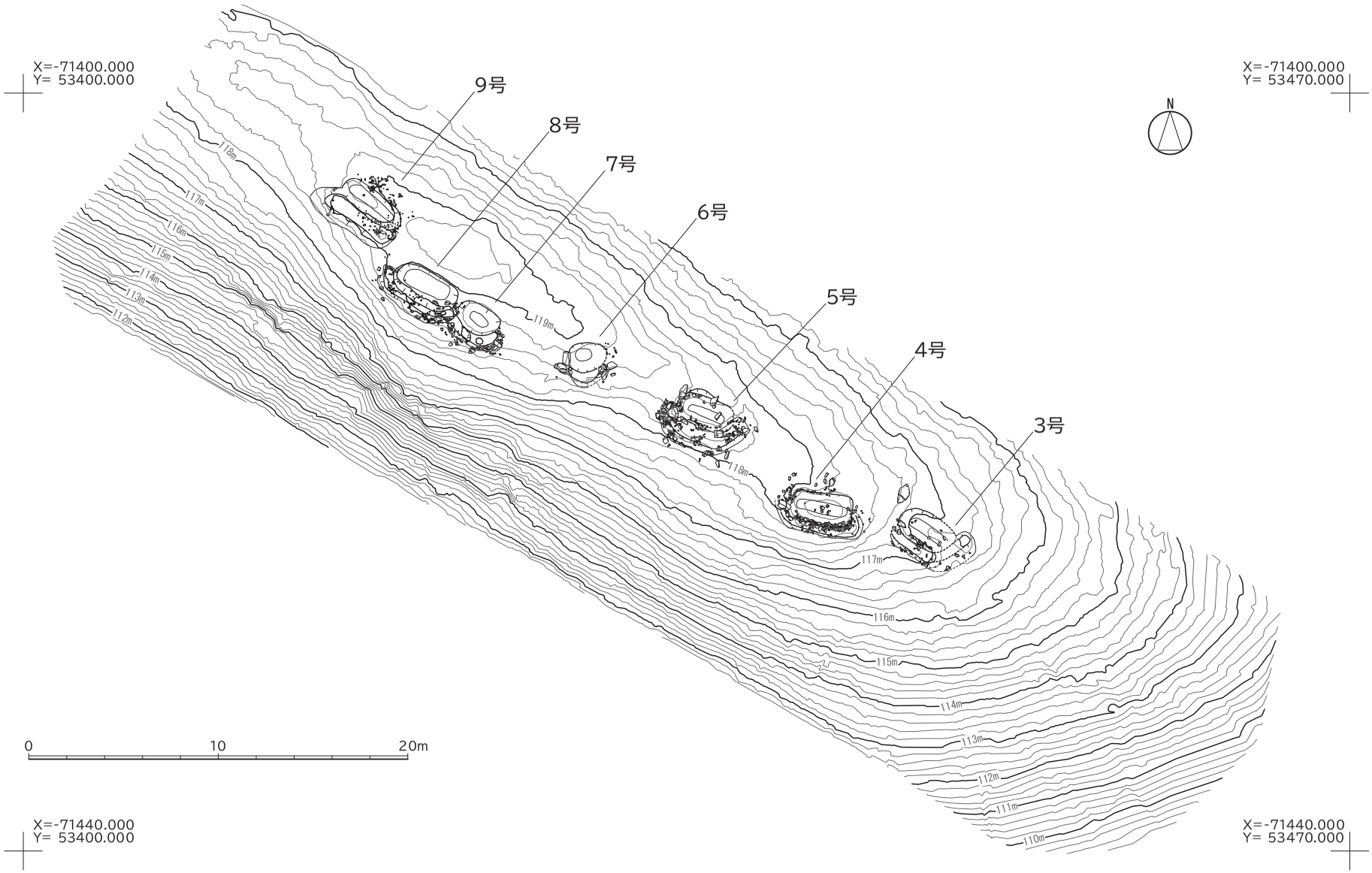
規模は最大幅が約5.1m、奥行が約3.2mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約1.8m、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.6mである。

鳥川台場群６号（第３図）

規模は最大幅が約3.4m、奥行が約2.4mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成されるが、土塁・凹地ともにやや不明瞭である。土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約1.4mである。

鳥川台場群７号（第３図）

規模は最大幅が約3.4m、奥行が約3.0mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約1.2m、内面（凹地）側における現況土塁高は約0.5mである。北西側は８号に接している。７・８号の前方（西側）の急斜面でスナイドル銃弾１点を採集したが、原形を留めないほど激しく潰れており、付近に露出している岩盤に衝突した可能性がある。



第3図 鳥川台場群3～9号 遺構分布図（S=1:300）

鳥川台場群８号（第３図）

規模は最大幅が約 4.5 m、奥行が約 2.6 mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約 1.4 m、内面（凹地）側における現況土塁高は約 0.6 mである。南東側は７号に接している。

鳥川台場群９号（第３図）

規模は最大幅が約 4.9 m、奥行が約 2.8 mである。直線的な棒状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約 1.7 m、内面（凹地）側における現況土塁高は約 0.4 mである。

鳥川台場群10号

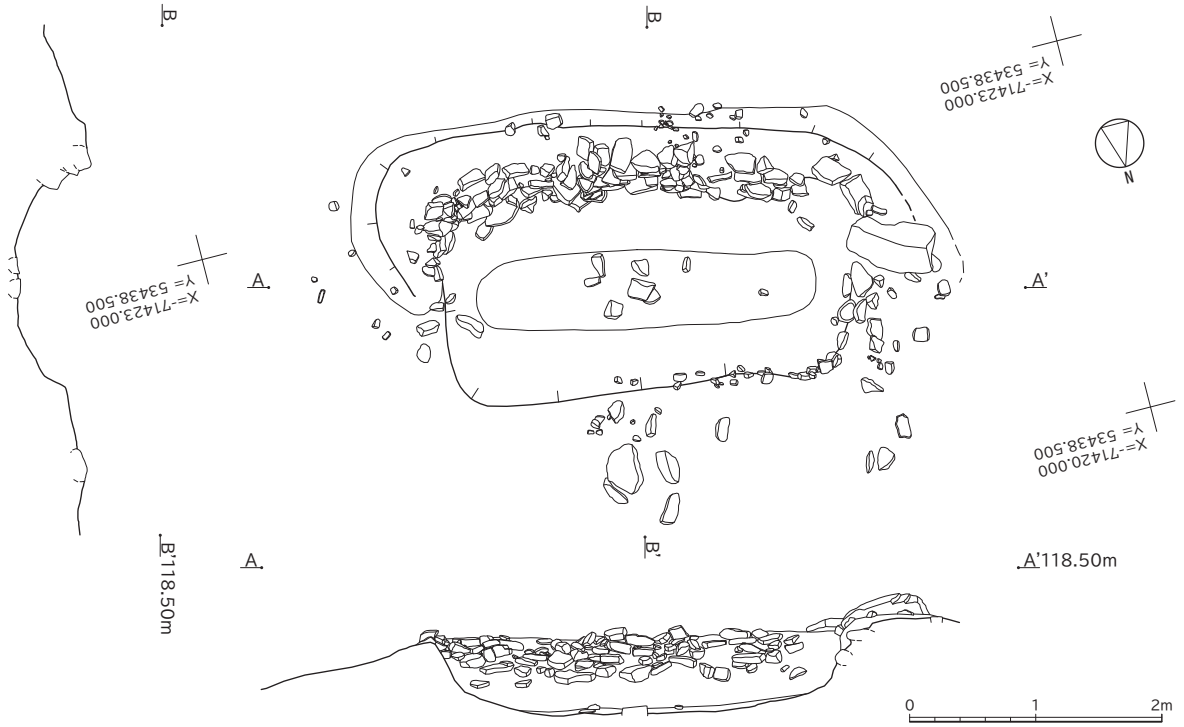
規模は最大幅が約 2.7 m、奥行が約 1.7 mである。弧状の土塁があるが低く不明瞭で凹地もはっきりしない。土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約 0.5 mである。

鳥川台場群11号

規模は最大幅が約 10.0 m、奥行が約 5.5 mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約 3.5 mである。

鳥川台場群12号

規模は最大幅が約 5.0 m、奥行が約 3.5 mである。弧状の土塁と楕円状の凹地で構成され、土塁は南西側に巡る。土塁中央付近での基底幅は約 1.8 mである。



第4図　鳥川台場群４号　遺構実測図（S=1:60）

図版１

阿下台場群１号（日之影町）
東向き、政府軍
最大幅約6.9m、奥行約5.4m
令和２(2020)年度調査

菅原台場群１号（延岡市）
北西向き、薩軍
最大幅約9.3m、奥行約6.8m
令和２(2020)年度調査

陣が峰北尾根台場群２号（延岡市）
西向き、政府軍
最大幅約4.3m、奥行約3.3m
令和２(2020)年度調査

図版２

桐ノ陣台場群１号（日向市）
南向き、薩軍
最大幅約8.3m、奥行約5.0m
令和２(2020)年度調査

鳥川台場群４号（日向市）
南向き、薩軍
最大幅約4.8m、奥行約2.4m
令和２(2020)年度調査

余瀬台場群２号（日向市）
北東向き、政府軍
最大幅約10.0m、奥行約6.0m
令和２(2020)年度調査

尾立台場群５号（綾町）
北西向き、薩軍
最大幅約5.6m、奥行約4.0m
令和２(2020)年度調査

勝負台場群14号（小林市）
南西向き、薩軍
最大幅約10.8m、奥行約7.3m
令和２(2020)年度調査

岩牟礼城跡台場群１号（小林市）
北東向き、政府軍
最大幅約6.0m、奥行約4.5m
令和２(2020)年度調査

図版４

薩軍兵士の墓（延岡市）
令和２(2020)年度調査

細島官軍墓地（日向市）
令和２(2020)年度調査

西郷南洲翁家来の墓（日向市）
令和２(2020)年度調査

広木野台場（五ヶ瀬町）
南西向き、薩軍
最大幅約10.6m、奥行約6.7m
令和３（2021）年度調査

宮ノ原台場（五ヶ瀬町）
北西向き、薩軍
最大幅約8.7m、奥行約5.0m
令和３（2021）年度調査

小坂峠台場群４号（高千穂町）
北西向き、薩軍
最大幅約7.1m、奥行約5.0m
令和３（2021）年度調査

図版６

和田越台場群３号（延岡市）
北東向き、政府軍
最大幅約5.4m、奥行約2.9m
令和３(2021)年度調査

横谷台場群１号（西米良村）
南西向き、薩軍
最大幅約10.0m、奥行約4.0m
令和３(2021)年度調査

天包山台場群４号（西米良村）
北向き、薩軍
最大幅約4.4m、奥行約2.8m
令和３(2021)年度調査

陣之尾台場群35号（宮崎市）
北東向き、薩軍
最大幅約5.4m、奥行約5.0m
令和３（2021）年度調査

市ノ瀬台場群１号（小林市）
南向き、政府軍
最大幅約5.6m、奥行約3.5m
令和３（2021）年度調査

矢岳台場群４号（えびの市）
北西向き、薩軍
最大幅約6.5m、奥行約5.1m
令和３（2021）年度調査

図版８

薩軍兵士の墓（五ヶ瀬町）
令和３(2021)年度調査

官軍墓地（高千穂町）
令和３(2021)年度調査

官軍墓地の墓石群（えびの市）
令和３(2021)年度調査

樫山台場群２号（延岡市）
東向き、政府軍
最大幅約5.2m、奥行約3.5m
令和４(2022)年度調査

一里山台場群３号（西米良村）
西向き、薩軍
最大幅約14.1m、奥行約7.1m
令和４(2022)年度調査

百貫山台場群１号（えびの市）
西向き、政府軍
最大幅約7.8m、奥行約5.5m
令和４(2022)年度調査

図版 10

招魂之碑（西都市）
令和 4（2022）年度調査

奉招神魂牌（小林市）
令和 4（2022）年度調査

飯野郷招魂碑（えびの市）
令和 4（2022）年度調査

報 告 書 抄 録

ふ り が な	せいなんせんそうかんれんいせきそうごうちょうさせいかほうこくしょ
書 名	西南戦争関連遺跡総合調査成果報告書
副 書 名	
シ リ ー ズ 名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第266集
編 著 者 名	堀田孝博
編 集 機 関	宮崎県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒880-0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地　TEL 0985-36-1171
発 行 年 月 日	２０２３年　3月　１０日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
とりかわだいばぐん 鳥川台場群	みやざきけんひゅうがし 宮崎県日向市 とうごうちょうやまげおつ 東郷町山陰乙 2453-10 ほか	45206		32° 21′ 16″	131° 34′ 03″	20200617 ～ 20210229	―	測量調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
とりかわだいばぐん 鳥川台場群	戦跡	近代	台場　１２基	エンフィールド銃弾、スナイドル銃弾	12基の台場のうち、４号は土塁内側に石積みの土留めを行うなど、特異な構造をしている。

要 約	本書は、令和２～４年度に実施した西南戦争関連遺跡総合調査の成果をまとめたものである。３か年の現地調査で台場521基、墓･慰霊碑等510基、その他の関連遺跡（建物ほか）29箇所について所在を確認し、計測や写真撮影を行ったが、本書では日向市所在の鳥川台場群について概要を記した。

【調査協力者】
秋本　治、井上誠二、岩田政詞、岡寺　良、岡本真也、荻原紘一、甲斐文人、菊池フジ子、黒木敦郎、黒木初明、黒木正文、黒田美夜子、甲田琢馬、興梠正富、佐藤和男、塩月伸司、塩月秀幸、塩月正光、高橋信武、高見憲治、太川裕晴、谷　仲吉、野別秀二、野別知孝、浜砂正助、藤岡吉照、古川信夫、牧野義英、真崎勝男、三木修一、水野安紘、溝田智俊、呼子和友、和田聖志

【調査協力機関】
真光寺、浄専寺、専光寺、宝光寺、藤仲興産株式会社、綾町教育委員会、えびの市教育委員会、五ヶ瀬町教育委員会、小林市教育委員会、西米良村教育委員会、延岡市教育委員会、日之影町教育委員会、日向市環境政策課、日向市教育委員会、美郷町教育委員会、宮崎市教育委員会、都城市教育委員会、宮崎県総合博物館

（順不同、敬称略）

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 266 集

西南戦争関連遺跡総合調査成果報告書

２０２３年３月

発　行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒 880-0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985(36)1171　　FAX 0985(72)0660

印　刷　北一株式会社
〒 880-0903　宮崎県宮崎市太田３丁目１番地 31
TEL 0985(51)5100　　FAX 0985(53)5640

Report on the General Survey of Satsuma Rebellion Related Sites

The Report of Excavation by Miyazaki Prefectural Archaeological Center
vol.266

2023

Miyazaki Prefectural Archaeological Center